地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪　拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和6年11月（着任3年10ヶ月）
主な活動	1.知覧茶マルシェ 規模を拡大しての開催！ 2. えいのゴッソイ祭り 晩秋の日に大盛況！ 3.各種研修や重要会議への参加

1.知覧茶マルシェ 規模を拡大しての開催！

写真：晴天の知覧茶マルシェ会場にて

当月は、秋のイベント最盛期にて当市を中心に「知覧茶」と絡めた企画の開催をしました。一つ目は、勤労感謝の日を「お茶いっぱいの日」と鹿児島県が制定した11月23日に開催の知覧茶マルシェです。
秋雨前線などの影響で、直前まで天候が危ぶまれましたが、イベント当日は雲ひとつない快晴となり、非常に多くのご来場をいただくことができました。

私が着任してから毎年みてきた当イベントは、パンデミック中も規模を縮小しつつイベントを「継続」してきた結果が、今に繋がっているのだろうと非常に感慨深いものがあります。

南九州市
Minamikyushu City

写真：(左)大人気ガラポン / (右)お茶むらいじゃんけん大会

かつては、茶業振興会を中心とする規模のイベントでありましたが、今では観光協会や地元の民間企業、市役所各課や地元薩南工業高校生などと連携し、数千名を超えるイベントへと成長してきております。
やはりそうなってくると、年々周囲からの期待も大きくなり事務局を中心とする運営側の業務ウェイトも十分考慮しなければならないと考えます。
簡単そうにみえる「継続」は、隠れた裏方の人たちで支えられていることを各所が念頭におかなければならないと思います。

2.えいのゴッソイ祭り 晩秋の日に大盛況！

写真：飲食特別ブースでのライブパフォーマンス

当月二つ目のイベントとしまして、秋開催二年目のえいのゴッソイまつりの開催です。
本年は、昨年よりさらにパワーアップし、鹿児島県内でもトップクラスの賑わいをみせたと言っても過言ではないくらい反響のあったお祭りとなりました。

写真：(左)(中)飲食特別ブースガラポン / (右)えいの神輿展示

手探りの中、初の秋開催を実施した昨年の経験が各所で活かされまして、出店希望業者の増加や、飲食特別企画のさらなる充実、かつてのゴッソイまつりを彷彿とさせる「えい音頭」や「えい神輿」の復活、そしてフィナーレを飾る花火の躍動感など、振り返りワードを挙げたらキリがないほどです。

参加者は、多くの地元市民はもちろんのこと、鹿児島県内各地から昨年の噂をききつけお越しいただき、特に最後の花火を打ち上げたシーンでは、拍手喝采の声が会場に響き渡りました。

一部の担当が過度な「責任」と「業務」を負う一般的なお祭りとは異なり、運営各部ごとの「裁量の自由さ」と「前向きな姿勢」を尊重する運営体制、何より参加者だけでなく、企画組織も「楽しむ」ことができるということが、当市にも強く求められているのではないでしょうか。

3.各種研修や重要会議への参加

写真：薩南工業生とえい茶発祥の地を巡る様子

昨年も同時期に実施の、薩南工業高校生の職場体験学習の案内を当月おこないました。本年は、抹茶の原料となる「てん茶」を製造する茶工場への見学と、生産エリアの茶の歴史、知覧茶ができるまでなどを説明し、地元の基幹産業を知っていただく機会となったかと思います。

午後からは、普段茶業課がおこなっている業務を体験いただき、最後は知覧茶の提供方法、品種ごとの飲み比べを実施など、濃い一日となりました。

南薩エリア各校の進路指導の先生とお話をすると、近年就職の選択肢として実家から通える、業務量の多くない、安定した職場が人気ということを耳にしておりまして、地元思考の生徒や、一度遠くに就職をしたのち、また帰ってきたいと思った際の選択肢として今回の職場体験が残っていたらいいかもなと感じたことろです。

写真：茶業女性 えい支部全体研修の様子

また、別日には茶業女性 えい支部の全体研修に講師として参加いたしました。
ここでは、各会合で暗い茶業情勢ばかり聞くと気持ちも滅入ってしまうと感じ、「コーヒーとワイン業界からみた茶業について」という、私が通ってきた業界の知見を活かす前向きなテーマをお話しいたしました。

どれくらいのスパンで情勢をみるか、どの立場からみるかによって、茶業の見え方も大きく異なると思っています。短期的には、まだまだ厳しい道のりになることが予想されますが、その先には現実的な市場の好転が十分期待できると肌で感じます。
「みんなで一緒に」/「周りも大変だからしょうがない」ではなく、そう遠くない未来訪れる転換期に十分対応できるための「個」の力を身につけておくべきであると、私は強く思います。

以上、当月の報告といたします。